

みずほCustomer Desk Report 2018/08/20号(As of 2018/08/17)

国際為替部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	110.90
TKY 9:00AM	111.02	1.1372	126.22	GBP/USD	1.2712
SYD-NY High	111.05	1.1445	126.60	AUD/USD	0.7260
SYD-NY Low	110.32	1.1367	125.57		0.7319
NY 5:00 PM	110.54	1.1439	126.51		0.7253
NY DOW	25,669.32	110.59	日本2年債	-0.1300	▲1.00bp
NASDAQ	7,816.33	9.81	日本10年債	0.0900	▲1.00bp
S&P	2,850.13	9.44	米国2年債	2.6101	▲0.84bp
日経平均	22,270.38	78.34	米国5年債	2.7422	▲0.17bp
TOPIX	1,697.53	10.38	米国10年債	2.8632	▲0.55bp
シカゴ日経先物	22,270.00	▲20.00	独10年債	0.3025	▲1.40bp
ロンドンFT	7,558.59	2.21	英10年債	1.2335	▲0.40bp
DAX	12,210.55	▲26.62	豪10年債	2.5445	▲1.10bp
ハンセン指数	27,213.41	113.35	USDJPY 1M Vol	7.17	0.17%
上海総合	2,668.97	▲36.23	USDJPY 3M Vol	7.75	▲0.10%
NY金	1,184.20	0.20	USDJPY 6M Vol	8.01	▲0.02%
WTI	65.91	0.45	USDJPY 1M 25RR	-1.18	Yen Call Over
ORB指数	188.74	0.36	EURJPY 3M Vol	9.20	▲0.25%
ドルインデックス	96.10	▲0.54	EURJPY 6M Vol	9.48	▲0.08%

【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
8月17日	18:00	欧 コアCPI・確報	7月 1.1%	1.1%
	18:00	欧 CPI(前年比)・確報	7月 2.1%	2.1%
	18:00	欧 CPI(前月比)	7月 -0.3%	-0.3%
	23:00	米 ミシガン大学消費者マインド・速報	8月 95.3	98.0

【本日の予定】

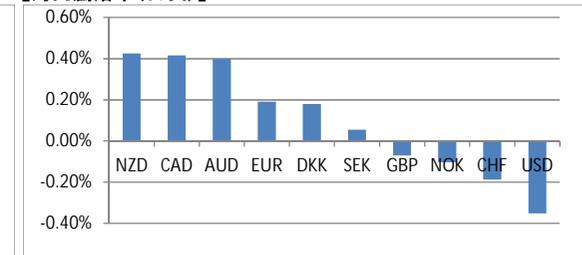
Date	Time	Event	予想	前回
8月20日	15:00	独 PPI(前月比/前年比)	7月 0.2%/3.0%	0.3%/3.0%
8月21日	00:00	米 ボスティック・アトランタ連銀総裁 講演	-	-
	03:00	欧 バイトマン・ドイツ中銀総裁 講演	-	-

東京	東京時間のドル円は111.02レベルでオープン。前日海外時間に株高が進行した流れを受けて日経平均株価が前日比121円高で寄り付いたこと等からドル円は一時111.05まで上昇。しかし、111円台での滞空時間は短く、すぐに110円台後半に押し戻されるとその後は特段の新規材料ない中で狭いレンジ内の小動きが続いた。引けにかけては小幅に水準を下げる展開となり、結局110.80レベルで海外へ渡った。(東京15:30)
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、110.80レベルでオープン。日銀ETF購入のステルスオペレーションへの警戒感や、トルコへの米追加制裁、格付け見直しへの懸念等から、円買いが優勢。110.42まで売られた後、110.48レベルでNYに渡った。ユーロは1.1387レベルでオープン。ユーロ圏6月経常収支(240億ユーロの赤字)の発表後、1.1420まで上昇するも、週末を控えた手じまいから反落。ユーロ圏7月CPI改定値は前年比+2.1%に伸びが加速したが、殆ど市場の反応は無かった。1.1374まで低下した後、真偽は定かではないが、トルコが拘束しているブランソン牧師の釈放を準備しているとの噂が伝わり、欧州株が上昇すると、ユーロも小幅に買い戻され、1.1389レベルでNYに渡った。ポンドは1.2730レベルでオープン。翌週にも英政府がノー・ディール時の影響と対策を発表すると伝わったことから、売りが優勢。1.2699まで下落し、1.2714レベルでNYに渡った。(ロンドン17:00)
ニューヨーク	海外市場のドル円は一時111.05まで上昇するが、依然トルコ情勢への警戒感がくすぶる中、トルコを含む新興国通貨に対しドルが買われ110.42まで下落し、110.48レベルでNYオープン。朝方は、海外時間の流れを引き継ぎ、ドル円は下値模索の展開となる中、カナダCPIが予想以上に強く、対加ドルでの米ドル売りが更なる下押し材料となり、ドル円は110.32まで下値を切り下げられるが、110.54まで反発。その後、米8月シカゴ大学消費者マインド指数(速報値)が予想を下回ったことから、ドル円は売りが散見され、再び110.32まで下落するが、テクニカルな水準も意識され110.59まで反発。午後は週末を控え持ち高調整の売りが散見され、上値重く推移。WSJ紙が関係者の話として「米中両国当事者が11月末に開催されるG20サミットでの米中首脳会談に向けて着状態を終わらせるためのロードマップを描いている」と報じたことを受け、米中両国協議再開への期待感が高まっているためか、終盤は110.66まで上昇し、110.54レベルでクロス。海外時間のユーロドルは、ユーロ圏6月経常収支の発表直後に1.1420まで上昇するが、トルコ情勢への警戒感から下落し、1.1389レベルでNYオープン。オープン後は新興国通貨売りが一服する中、ポジション整理のドル売り・ユーロの買い戻しが進み、今週レシタスとなっていた1.1430近辺を上抜け1.1445をつけ、1.1439レベルでクロス。また、米格付け会社S&Pがトルコの格付け見直しの結果を発表し、1段階引き下げ「B+」から「B」に引き下げられたこと、織り込み済みのためか市場の反応は限定的だった。

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	110.00-111.00	1.1400-1.1500	125.70-126.70

【マーケットインプレッション】

先週末海外時間のドル円相場はやや下落した。トルコ通貨危機を巡る懸念が後退する中、今週に予定されている次官通商協議への期待で米中貿易摩擦への懸念も和らいだことを背景に、安全資産としてのドルが主要通貨に対して下落し、ドル円も110円台後半から110円台半ばまで下落。本日のドル円は方向感なく推移すると予想。お盆休み明けの五・十日で仲値にかけてドル買いが優勢となる可能性はあるものの、今週は米中両国協議の行方やパウエルFRB議長の講演が焦点になっており、節目の110円が意識される中、本日のドル円は110円台で方向感なく推移しそうだ。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当:ウー・森谷